



サウジ女性を描く初の長篇映画 「少女は自転車に乗って」



©2012,Razor Film Produktion GmbH,High Look Group,Rotana Studios

監督・脚本／ハイファ・アル・マンズール 出演／ワド・ムハンマド
 リーム・アブドゥラ 2012年サウジアラビア・ドイツ合作
 ラビア語・97分 原題「Wajida」提供・ニューセレクト 配給：アル
 バトロス・フィルム ★12月14日（土）神田神保町岩波ホールほか全国
 順次ロードショウ 2014年アカデミー賞外国映画賞サウジアラビ
 ア代表／2012年ヴェネツィア国際映画祭CICCAI賞 等3賞
 2013年トロント国際映画祭ルウェー平和映画賞

●世界最大の原油埋蔵量を持つといわれるサウジアラビアは、中東でも最もイスラムの戒律が厳しい国の一つとして知られる。とりわけ女性の権利は極度に制限され、車の運転も

単独旅行も、デイスコや劇場へ付き添いなしに行くことも禁じられている。家族以外の男性がいる場所ではアバーヤと呼ばれる黒い布で全身を覆い、ヒジャブという黒いスカーフで髪を隠す。女性の就労率は10%程度、参政権もないが、2015年から地方選挙にだけ参加できることになった。

●映画館の設置すら法律で禁止されているというそのサウジアラビアから、素晴らしい長篇劇映画が誕生した。しかも監督は女性、出演者もサウジアラビア人、撮影もサウジ国内ですべて行なわれたという。これは、世界映画史に特筆されるべき快挙ではないだろうか。●勝気で元気の良いヒロインは、首都リヤドに住む10歳の少女、ワジダ。ある日、同い年のアブドゥラと喧嘩した時、彼が「女の子が勝てるわけがないだろ」と言い自転車に乗って走り去って以来、自分も自転車に乗って彼と競走し、負かしてやりたいと強く願う。

●街の雑貨店に新しい自転車飾られた。代金は800リヤル。母親にねだるが、「女の子が自転車なんて」と相手にされない。それから小遣いを貯めて買おうと、手作りのミサングを級友に売りつけたり、上級生のラブレターを配達して手数料を稼いだりするが、800リヤルには到底届かない。そんな時、学校でコーランの暗誦コンテストが開かれることになった。優勝者の賞金は1千リヤル。ワジダは迷わず宗教クラブに入り、コーランを美しく暗誦できるよう必死に練習する。コン

テスト当日、ずばぬけた集中力で勝ち抜き賞金を手にするが、果たして彼女は念願の自転車を手に入れられるか？

●ワジダの母親は男の子を授かることができなかつたために、家系が絶えることを心配する姑が強く介入して、夫（ワジダの父親）は第二夫人のもとに去って行く。ムスリム社会では今でも珍しくないケースだという。ワジダの通う女子校の女校長が生徒の服装や操行に眼を光らせ、二言目には「男性に見られますよ」と言うのも、戦前の日本のお嬢様学校を連想させておかしかった。全体としてイスラムの女性がおかれた状況をリアルに描きながら、ヒロインの活発な振る舞いのおかげで、明るく後味の良い作品に仕上がっている。

●ハイファ・アル・マンズール監督は、サウジアラビアの保守的な大都市で12人兄弟の8番目に生まれ、カイロの大学を卒業、短編映画やドキュメンタリーを制作後、オーストラリアに渡りシドニー大学で映画学を学んだ。「制作過程の一つ一つが冒険のような経験でした。女性監督が商業映画のセットの中で男性たちに混じって働く姿はご法度です。私は撮影車のバンの中に隠れ、無線で指示を出さなければなりませんでした」「女性の尊厳を認めない伝統はイスラム教の狭義の解釈とも結びつき、社会に深く根付いています。それを分解し再構築するのは、難しいけれど戦う価値のある目標です」と彼女は語っている。

本野義雄（もとの・よしお／本誌編集委員）